



# 関西経済レポート(2月号)

- ➡ 12月の関西の鉱工業生産は、前月比2カ月ぶりの上昇。結果、2013年を通じて生産は緩やかな回復が続いている。
- ➡ 1月は春節の影響により輸出の伸びは鈍化し、一方、駆け込み需要もあり輸入は過去最高額を更新。結果、貿易収支は5カ月連続の赤字。
- ➡ 1月の消費者マインドは「雇用環境」を除いて弱い動きとなり、消費増税後の懸念が先行指標に表れている。
- ➡ 1月の大型小売店販売額は6カ月連続の前年比プラスと好調を維持。住宅着工は堅調に推移しているが、今後は反動も予想される。
- ➡ 1月の有効求人倍率は0.98倍、2カ月連続の改善となったが、失業率は前月より0.2ポイント悪化。
- ➡ 12月の建設工事は堅調な増加。1月の公共工事受注額は2カ月連続の前年比プラス。
- ➡ 1月中国製造業の購買担当者景況指数(PMI)は、前月より0.5ポイント低下となり、2カ月連続の減速となった。

※「近畿」・「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。

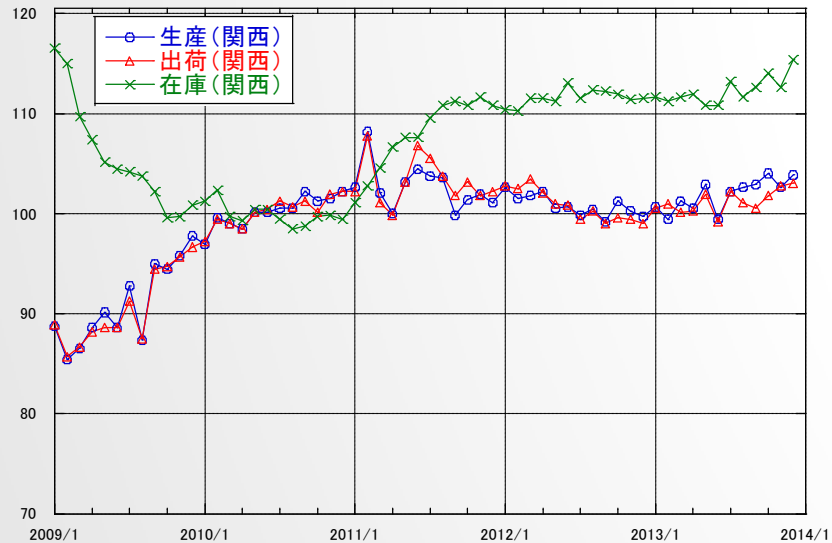
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

## ～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

# ～生産～

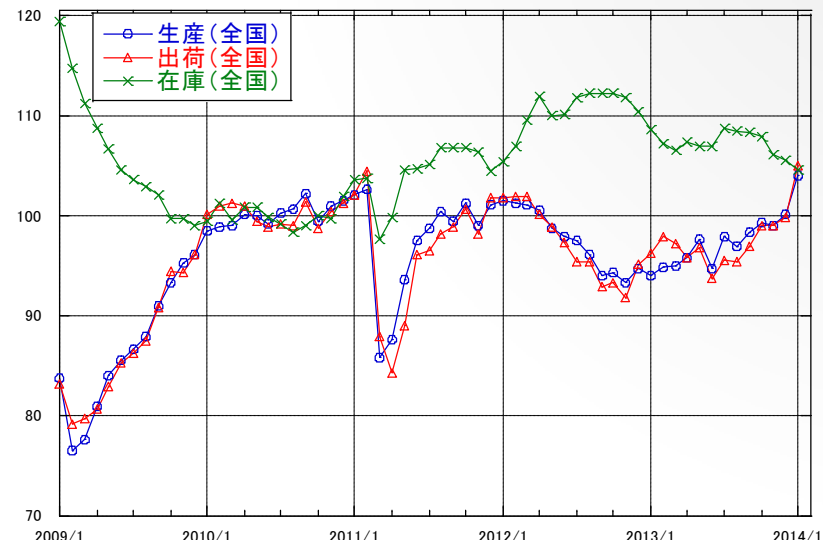
鉱工業指数の推移(近畿・2013年12月まで), 2010年=100



(データ出所: 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局)

- 関西における12月の鉱工業生産指数(確報値: 季節調整済)を見ると、生産は103.9で前月比+1.2%と2カ月ぶりの上昇。出荷は103.1で同+0.3%と3カ月連続の上昇。在庫は115.5で同+2.5%と2カ月ぶりの上昇となっている。
- 業種別に生産指数をみると、金属製品(同+8.4%)、電気機械(同+2.5%)、輸送機械(除. 鋼船・鉄道車両)(同+3.8%)等が上昇した。一方、はん用・生産用・業務用機械(同-1.8%)、電子部品・デバイス(同-3.4%)、石油・石炭製品(同-3.7%)等が低下した。
- 2013年を振り返ると、1-3月期(前期比+0.1%)、4-6月期(同+0.6%)、7-9月期(同+1.6%)に続いて、10-12月期同+0.9%と緩やかな回復が続いた。
- 関西の生産は緩やかながらも回復が続いている。

鉱工業指数の推移(全国・2013年12月まで), 2010年=100

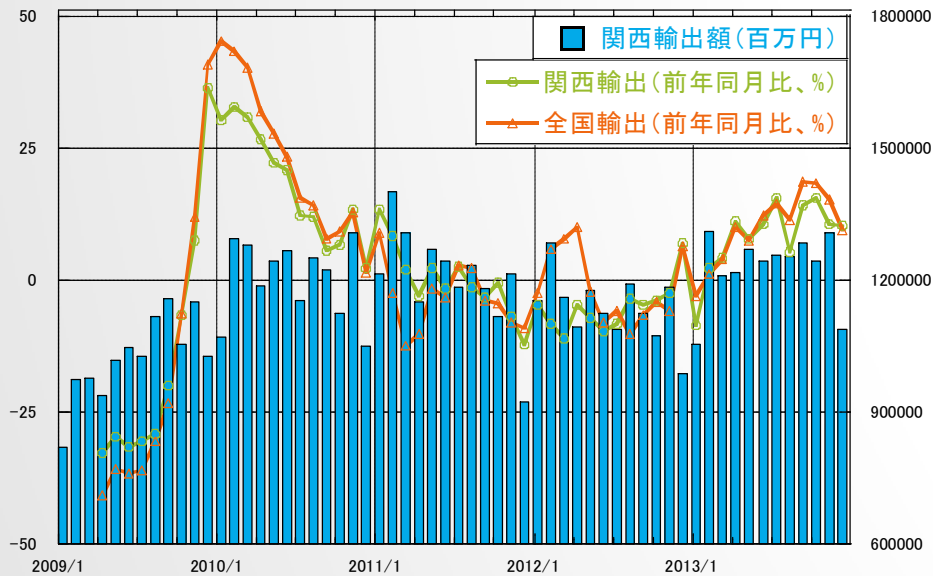


(データ出所: 「鉱工業指数」、経済産業省)

- 全国における1月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は104.1となり前月比+4.0%と大幅上昇し2カ月連続のプラス。出荷は105.0で同+5.1%と5カ月連続の上昇、在庫は104.6で同-0.9%と6カ月連続の減少。企業は消費増税後に備えて、在庫積み増しに慎重になっているようである。
- 業種別にみると、輸送機械、はん用・生産用・業務用機械、化学(除. 医薬品)等が上昇。一方、金属製品、電子部品・デバイス、繊維等が低下。
- 生産予測調査によると、2月の製造工業は前月比+1.3%と増加も、3月は同-3.2%と減産の見込み。足下、駆け込み需要により一時的に大きな増産が見られるものの、年度末にかけて生産動向は落ち着きを見せると考えられる。

# ～輸出入～

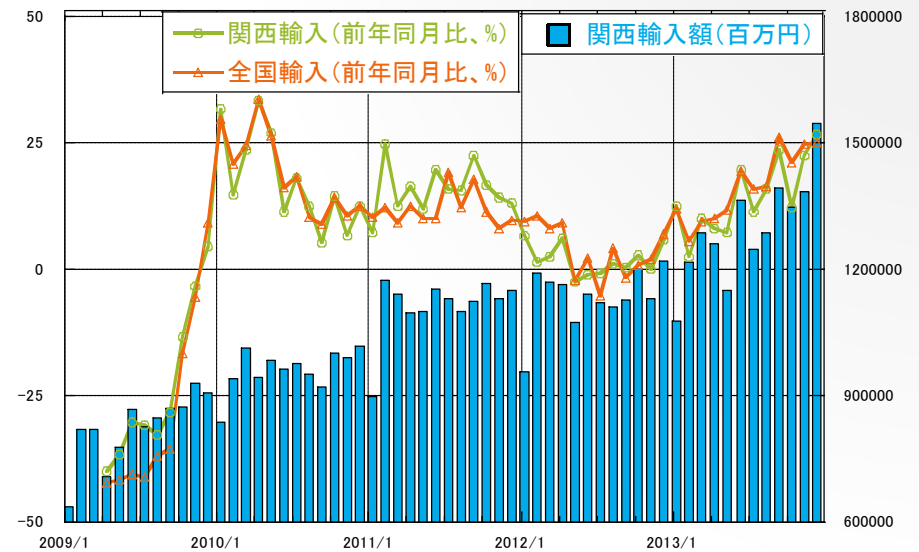
輸出動向 (右: 輸出額、左: 前年同月比) (2014年1月まで)



(データ出所: 「大阪税関貿易速報資料: 近畿圏」、大阪税関調査統計課)

- 関西1月の輸出額 (速報値) は1兆882億円、前年同月比+10.3%と11カ月連続の増加。
- 輸出は、鉱物性燃料、鉄鋼、半導体等電子部品等を中心に増加。
- 全国1月の輸出額 (速報値) は5兆2,529億円、前年同月比+9.5%と11カ月連続の増加。
- 関西の輸出を地域別にみると、1月はアジア(前年同月比+4.0%)、中国(同+9.6%)、米国(同+21.4%)、EU向け(同+29.8%)輸出はいずれも増加を続けている。対中輸出は春節の影響もあり伸びは6カ月ぶりの1ケタ台となった。

輸入動向 (右: 輸入額、左: 前年同月比) (2014年1月まで)

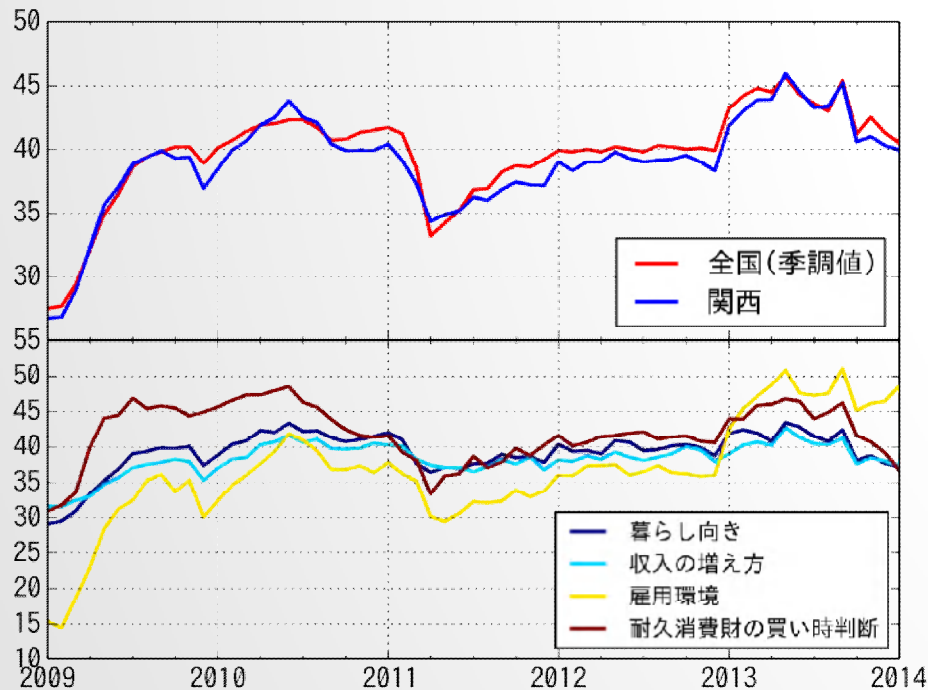


(データ出所: 「財務省貿易統計」、財務省)

- 関西1月の輸入額 (速報値) は1兆5,480億円、前年同月比+26.8%と13カ月連続の増加。輸入額は過去最高を更新。駆け込み需要の影響がみられる。
- 原油及び粗油(過去最高)、衣類及び同付属品(1月単月過去最高)、天然ガス及び製造ガス(1月単月過去最高)等を中心に、輸入は大幅に増加してきている。
- 全国1月の輸入額 (速報値) は8兆429億円、前年同月比+25.0%と15カ月連続の増加。
- 結果、関西の純輸出額は-4,598億円と5カ月連続の赤字、全国は-2兆7,900億円となった。

# ～消費者センチメント～

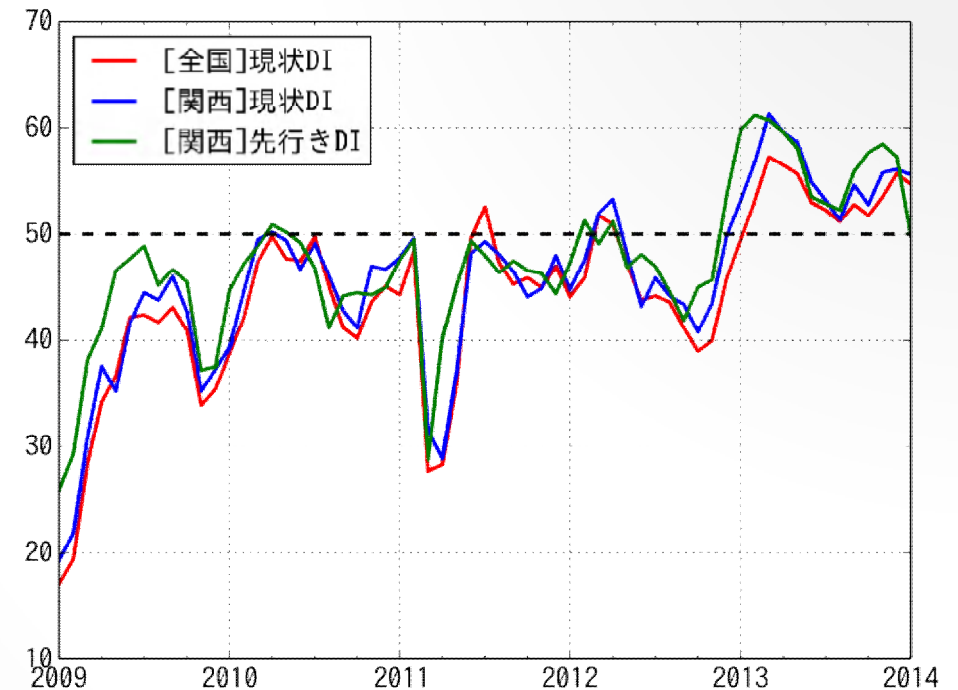
消費者態度指数(原数値、2014年1月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成26年2月10日公表)

- 関西の1月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.4ポイント下落し39.9となった。2カ月連続のマイナス。
- 同指数の構成項目をみると、消費増税を控え、「雇用環境」指標を除く3指標が前月から悪化した。「暮らし向き」が同-0.5ポイント、「収入の増え方」が同-0.7ポイントといずれも2カ月連続のマイナス。「耐久消費財の買い時判断」は4カ月連続のマイナスとなり、同-2.4ポイントと落ち込みが大きい。一方、「雇用環境」は同+2.1ポイントと3カ月連続で上昇、高水準を維持している。
- なお全国の1月の消費者態度指数(季節調整値)は40.5となり、同-0.8ポイントと2カ月連続で前月から悪化している。

景気ウォッチャー調査(2014年1月まで)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年2月10日公表)

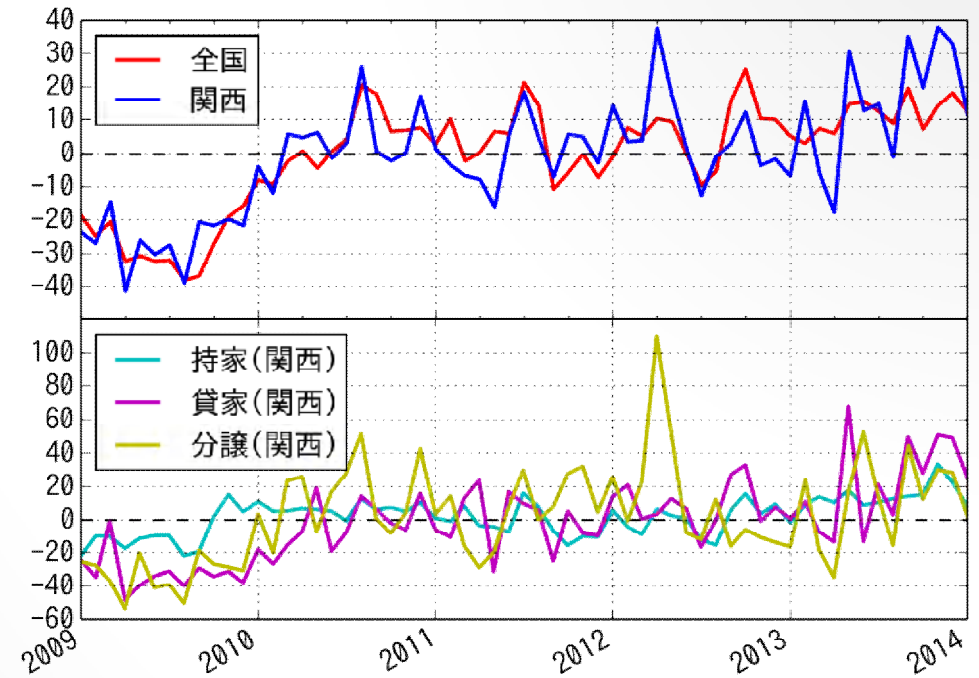
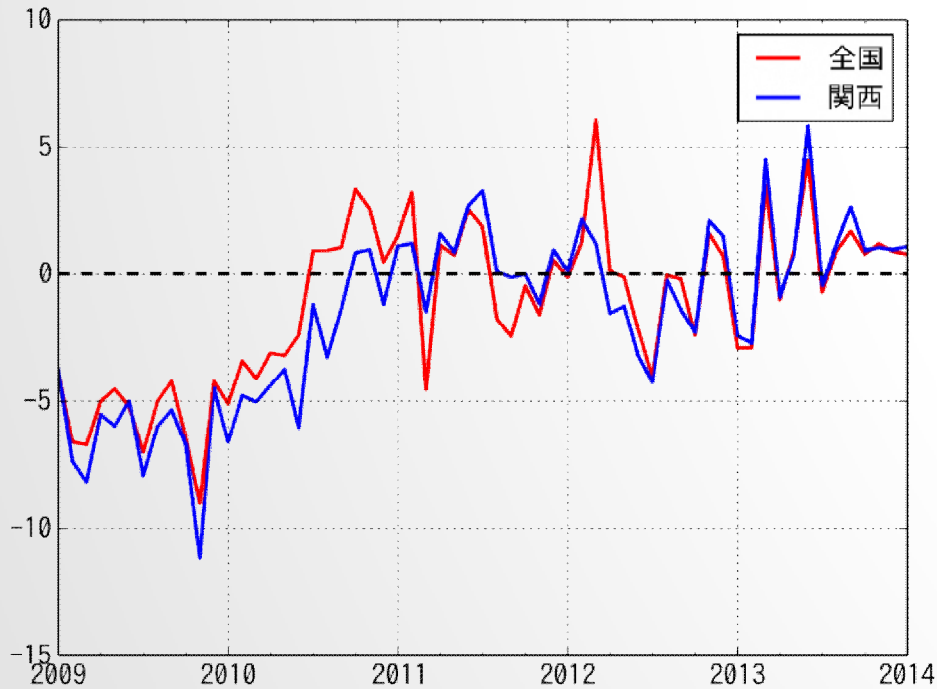
- 関西の1月の現状判断DIは前月比-0.5ポイントの55.6と3カ月ぶりに悪化した。
- 乗用車や家電を中心とする駆け込み需要の動きが続いているものの、正月休み後に飲食店等の売上が低迷したことがマイナスに働いた。
- 全国の現状判断DIも同-1.0ポイントの54.7と3カ月ぶりの悪化。
- 一方、関西の先行き判断DIは同-7.4ポイントと大幅悪化し49.9、全国の先行き判断DIも同-5.7ポイントの49.0となり、いずれも2カ月連続で悪化。
- 先行き判断DIが50を下回るのは関西・全国とも14カ月ぶりである。消費増税後の懸念が指標に表れている。



# ～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年1月まで)

新設住宅着工(前年同月比:%、2014年1月まで)



(注)福井県を含む。

(出所)経済産業省「商業動態統計」(平成26年2月28日公表)

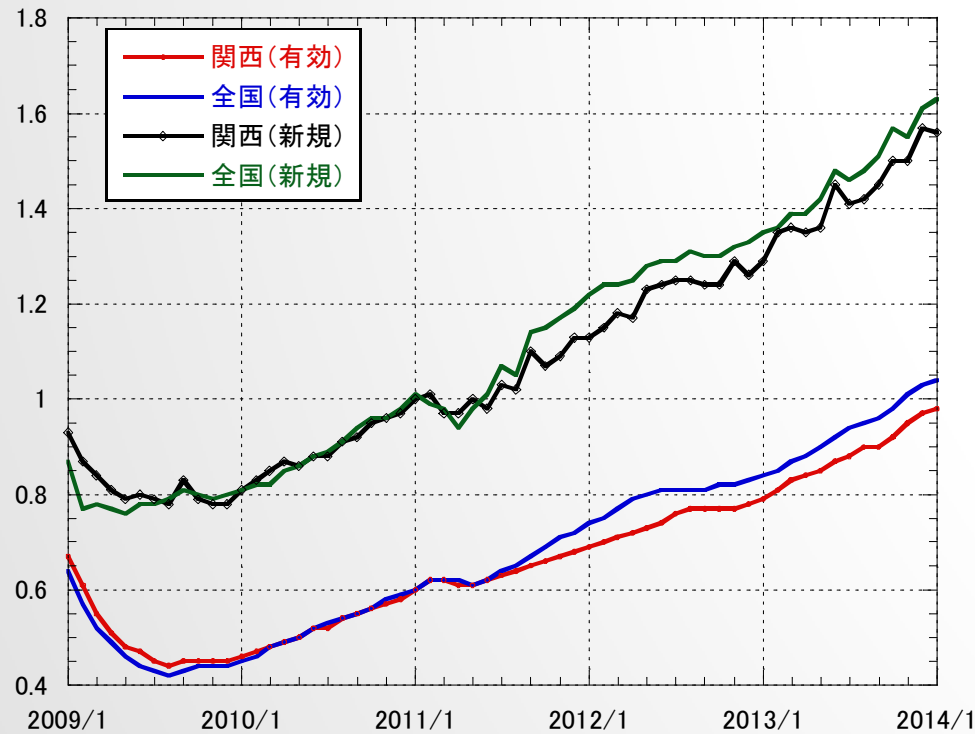
(出所):国土交通省「住宅着工統計」(平成26年2月28日公表)

- 関西の1月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.1%と6カ月連続のプラス。
- 百貨店も同+3.2%と6カ月連続のプラス。
- スーパーは同-0.2%と2カ月連続のマイナス。
- なお全国でも、1月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.8%と6カ月連続のプラスとなっている。

- 関西の1月の新設住宅着工戸数は11,299戸。前年同月比+11.7%と5カ月連続で上昇。
- 利用関係別にみると、持家は同+8.3%と12カ月連続の上昇、貸家が同+25.4%と7カ月連続の上昇。分譲も同+2.3%と4カ月連続で上昇した。
- 全国の新設住宅着工戸数は同+12.3%と17カ月連続で上昇。季節調整値は前月比-6.4%減少し5カ月ぶりのマイナス。先行指標である着工戸数は今後減少のスピードを速めよう。
- 1月の関西マンション契約率は72.1%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安とされる70%を超える水準を2011年9月以来維持しているが、原数値では65.2%となっており、2カ月連続で下回った。

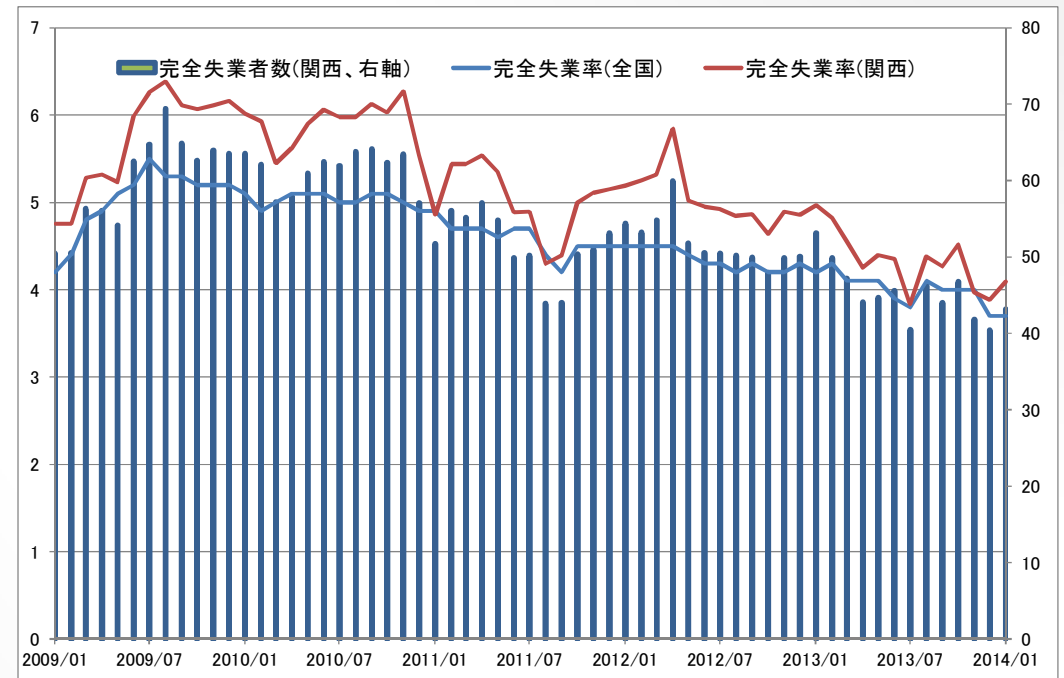
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年1月まで）



（出所）厚生労働省(2014年2月28日公表)

完全失業率の推移（季節調整値：％、2014年1月まで）



（出所）総務省「労働調査」(2014年2月28日公表)

## 関西2府4県有効求人倍率(2014年1月)

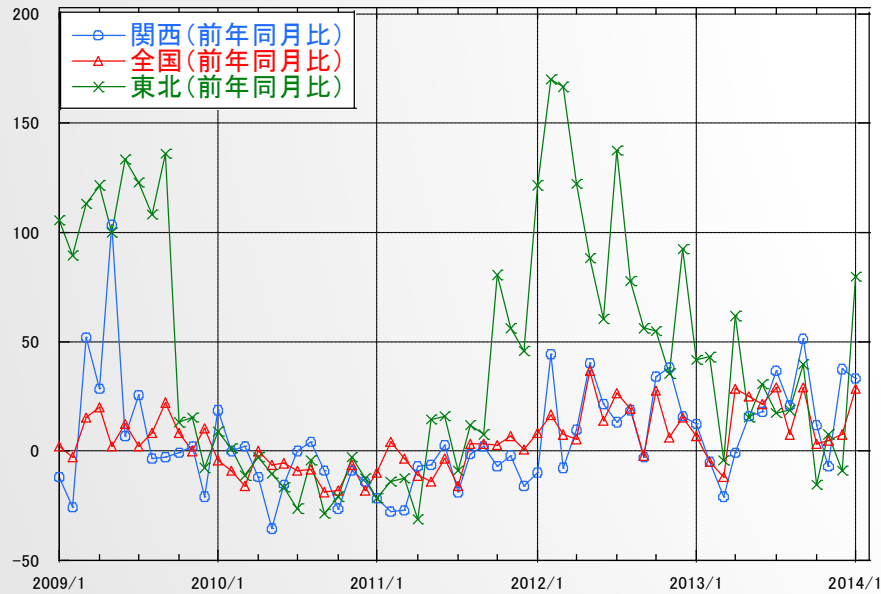
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
1月	1.04	0.98	0.93	0.97	1.09	0.83	0.92	0.94
12月	1.03	0.97	0.94	0.98	1.07	0.82	0.91	0.92

- 1月の関西の有効求人倍率は0.98倍、前月から0.01ポイントの上昇。2カ月連続の改善となった。
- 全国は1.04倍で、先月から0.01ポイント上昇。32カ月連続の上昇となった。
- 1月の新規求人倍率は、関西は1.56倍と前月より0.01ポイント低下。全国は1.63倍と同0.02ポイントの増加となった。
- 関西の有効求人倍率を府県別に見ると、大阪府は全国平均を上回り1.09となった。その他の府県は全国平均を下回った。

- 1月の関西の完全失業率（季節調整値：APIR推計）は4.1%となった。前月より0.2ポイント上昇。
- 全国の完全失業率（季節調整値）は3.7%となり、前月と横ばい。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は43.1万人。前月から2.7万人増加した。

# ～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比:%、2014年1月まで)

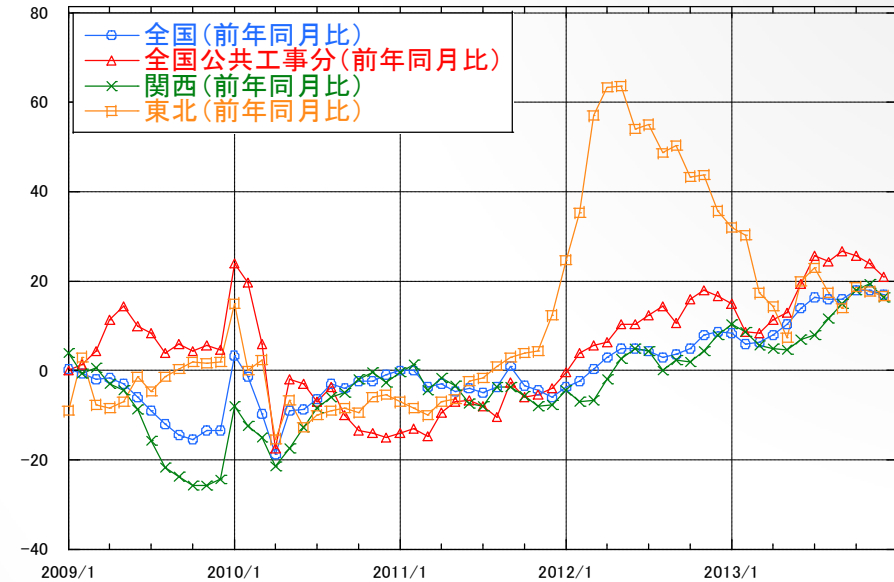


(注) 福井県を含む。

(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

- 関西の1月の公共工事請負金額は943億円。前年同月比+33.2%と2カ月連続のプラス。
- 全国は7,776億円と同+28.8%と10カ月連続のプラス。
- 東北は1,820億円と同+80.0%と、2カ月ぶりの大幅プラス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は2カ月ぶりのマイナス(関西：前月比-5.2%)、全国は2カ月連続のプラス(全国：同+19.1%)となり、2013年5月以来の2桁の伸びとなった。

建設工事(前年同月比:%、2013年12月まで)



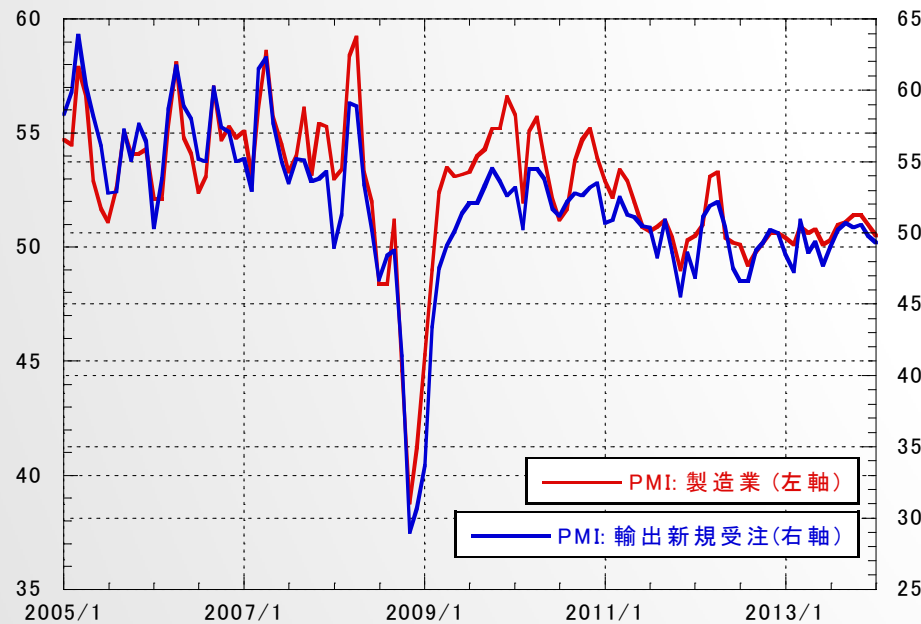
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西における11月の建設工事は5,950億円。前年同月比+16.4%と20カ月連続のプラス。
- 東北は6,186億円と同+16.6%となった。29カ月連続のプラス。
- 全国の建設工事は4兆9,202億円となり、同+16.9%と22カ月連続のプラス。
- 全国の建設工事(公共)は2兆2,598億円、同+20.9%と23カ月連続のプラス。いずれの地域も、建設工事の伸びは堅調に推移している。



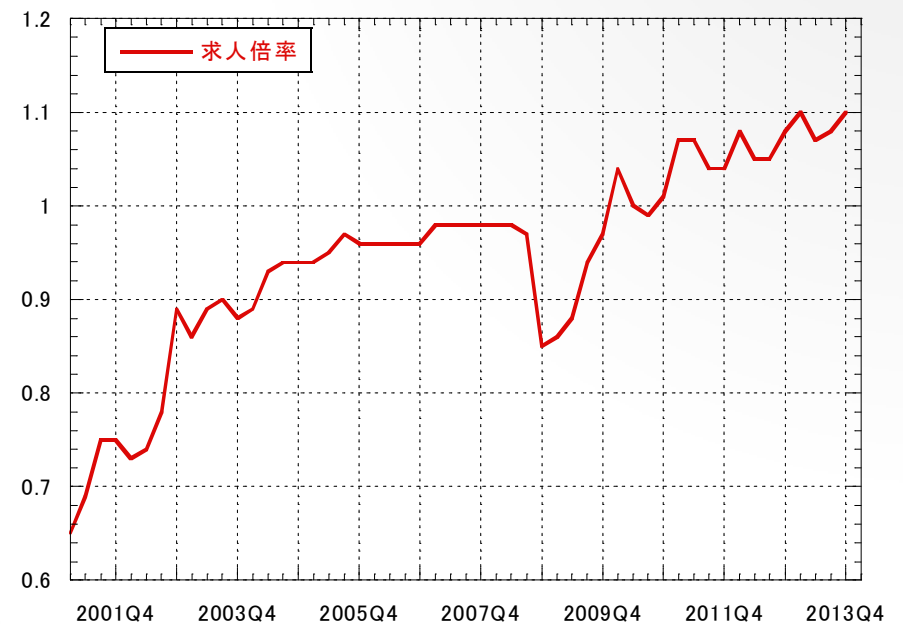
# ～中国経済動向①～

中国製造業購買担当者景況指数 (2014年1月まで: %)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

求人求職倍率 (2013年第4四半期まで)



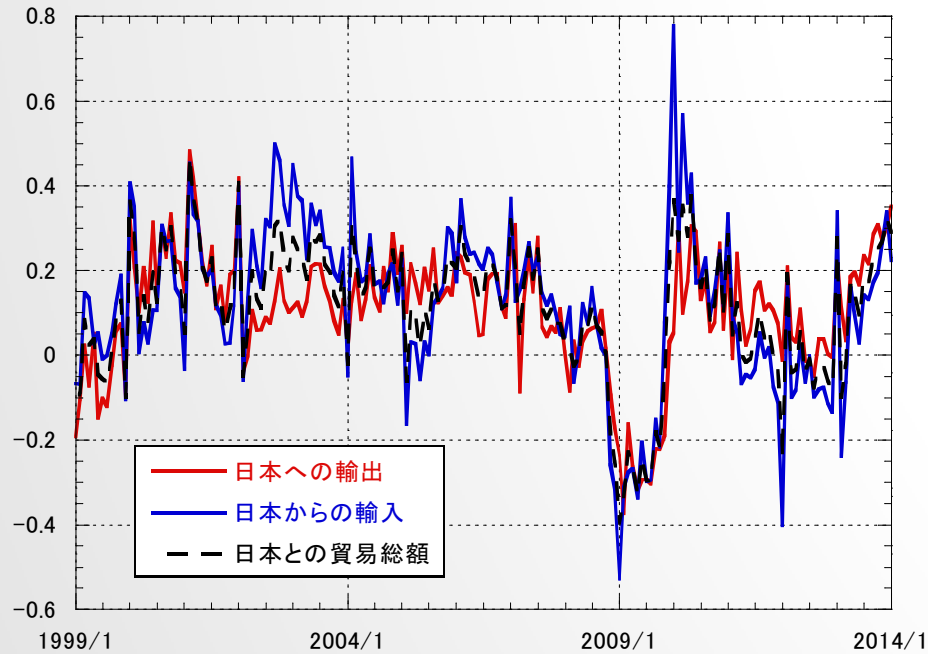
出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 製造業の購買担当者景況指数(PMI)は、2014年1月に50.5となり前月より0.5ポイント低下となり、2カ月連続の減速となった。うち、生産指数は53.0となり、前月(53.9)より0.9ポイントと大幅に低下し、2カ月連続の悪化となった、輸出新規受注指数は49.3となり、前月(49.8)より0.5ポイント低下し、好不調の目安とされる50を下回る状況が2カ月続いている。さらに、新規受注指数は50.9となり、前月よりマイナス1.1ポイントと大幅に低下した(4カ月連続の悪化)。また、1月の雇用指数は48.2となり、前月(48.7)から0.5ポイント低下した。2012年6月以来、20カ月連続で50を下回っている。
- 1月の製造業PMI指標の悪化は、中国の春節の影響によるものであると国国家统计局が分析しているが、経済成長の更なる減速が懸念されている。

- 2013年10-12月期の有効求人倍率は1.10となり、7-9月期よりやや上昇した。求人数と求職者数を見ると、求人数は前年同期比-3.3%と減少し、求職者数は同6.3%減少した(92主要都市ベース)。
- 職種別の求人倍率をみると、専門技術職(1.10)、商業とサービス業に従事する職(1.25)、農林牧漁水利の生産に従事する職(1.05)と、生産運輸設備を操作する職(1.20)が高い一方、管理職(1.00)と事務職(0.73)は低い。技術など現場作業の職種では求人が求職を上回る一方、ホワイトカラーの職では求職が求人を上回ることが示されている。

## ～中国経済動向②～

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年1月まで: %)



出所：中国税関; CEICデータベース; 日本銀行; APIR計算

- 中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は1月に前年同月比+10.6%と前月(同+4.3%、確定値)より大幅に伸びた。輸入額も同+10.1%(速報値)と前月の伸び(同+8.3%、確定値)から加速した。
- うち日本への輸出額は同+16.0%となり、5カ月連続のプラス。伸びは前月(同+5.5%)から上昇した。一方、日本からの輸入額は同+5.1%と3カ月連続のプラス。伸びは前月(同+8.2%)から減速した。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+35.1%(前月+30.5%)と12カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+22.5%(前月+33.8%)と9カ月連続のプラスとなった。結果、対日貿易収支は3カ月ぶりの黒字となった。